

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-11C	15-087	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Longitudinal smoking patterns in survivors of childhood cancer: An update from the Childhood Cancer Survivor Study. 小児がん克服者における長期的な喫煙状況：小児がん克服者研究から		
執筆者		
Gibson TM, Liu W, Armstrong GT, Srivastava DK, Hudson MM, Leisenring WM, Mertens AC, Klesges RC, Oeffinger KC, Nathan PC, Robison LL.		
掲載誌		
Cancer. 2015 Nov 15;121(22):4035-43. doi: 10.1002/cncr.29609		
キーワード		PMID
喫煙、小児がん克服者、縦断研究		26287647
要 旨		
<p>目的： 小児がんを克服者は罹患率、死亡率が上昇する。がん治療と関連した多くの遅発性の有害な影響(二次性ガン、循環器疾患、肺疾患)は喫煙とも関連している。またこのことは、喫煙の小児がん克服者はさらにリスクが高いことを示唆する。</p> <p>方法： 9,397 人の成人の小児がん克服者に対して 3 回の調査(調査間隔は 13 年)を行い、自己報告による喫煙状況を検討した。対象者の喫煙率は兄弟姉妹と比較した。また期待喫煙率は米国人口において年齢、人種、時間を考慮した割合を基にして算出した。多変量調整回帰モデルは全 3 回の調査による縦断での喫煙習慣と関連する因子についての検討に用いた。</p> <p>結果： 調査開始時、小児がん克服者の 19%が喫煙者で、兄弟姉妹は 24%、米国一般集団から推定されるこの集団での推定喫煙率は 29%であった。追跡調査時の喫煙率は小児がん克服者では 16%、14%と下がり、同様に兄弟姉妹の喫煙率、米国一般集団から推定される推算喫煙率も減少した。非喫煙と正相関していたのは高収入(相対リスク, 1.16)、高学歴(1.32)、頭蓋への放射線治療既往(1.08)であり、精神的苦痛(0.86)と大量飲酒(0.64)は逆相関していた。過去喫煙者では高収入(1.17)、高学歴(1.23)が禁煙行動と関連している一方、頭蓋への放射線治療(0.86)と精神的苦痛(0.80)は禁煙行動と逆に関連していた。有害な健康状態への進行は喫煙状況と関連しなかった。</p> <p>結論： 喫煙率はゆるやかに下がっているけれども、十分な数の小児がん克服者は喫煙者であり、小児がん克服者に対する喫煙に対する効果的な介入を続ける必要性が強調される。</p>		